

学校教育目標		持続可能な社会づくりを担う、心豊かでたくましい吉野の子どもの育成		重点目標	自他の考えを聴き合い、自分の考えを高める子どもの育成				
評価計画				自己評価		学校関係者評価		改善計画	
重点目標		目標達成のための方策(取組指標)		成果指標		結果(成果○と課題△)		改善計画(案)	
重点目標に関する評価	○確かな学力の育成 ①学力向上 ②授業づくり	○既習を振り返らせたり、課題を持たせる場面を提示したりして、自分でめあてをつくらせる場面の設定 ○タブレットを活用した練習問題に取り組む時間の設定 ○家庭学習強調週間を設定し、自主学習に取り組む。その後、学校独自テストを実施する。	○授業チェックリスト・児童アンケート3.0P以上 ○児童学校生活アンケート3.0P以上 ○学校独自テスト初回合格率80%以上	3 3 3	○学級によって実態の差はあるものの、自分たちの言葉でめあてやまとめを作ることができる児童がふえてきた。 ○朝の時間を中心に、タブレットを活用して個別の課題に対応した練習問題に取り組むことができた。 △家庭学習強調習慣の取組を通して、子どもたちが主体的に家庭学習を行う習慣はついてきたが、初回合格率80%には達しなかった。	A A A	・学校の評価は適切である。 ・子どもたちが真剣に学習していたのが印象的だった。 ・子どもたちが考えを伝え合う取組ができていると思う。継続してほしい。 ・この3項目は、児童の自己評価も高く、自尊感情の向上も見られるので、もっと高い評価でもいいのではないか。 ・評価委員会資料に学力テストや学校独自テストの結果を示した方が良かったと思う。 ・学年・学級によって取組の差があるのが気になる。	・学力向上を目指し、国語・算数について市販テスト平均80点を指すために何をするかを検討する研修会を位置づけ、実践する。 ・学習規律について職員間で共通理解を図り、共通実践を徹底する。 ・タブレット端末を有効活用し、児童の実態に合わせた学習を進める時間を確保するとともに、子どもの実施状況を把握・支援するようにする。 ・家庭学習強調週間で実施する学校テストについて、子どもが自信を持って学習に取り組めるよう各教室で支援の工夫をする。	
	○自尊感情と思いやりの心の向上 ①学校生活づくり ②人間関係づくり	○全校で「あいさつの木」の取組を推進 ・全学級で「あいさつの木」の掲示物にシールを貼っていく ○正しい言葉遣いの日常指導 ・「さん」付け等優しい言葉遣いの徹底 ○「黙々掃除」の徹底 ・掃除の合い言葉「だ・い・じ(黙って、一生懸命、時間いっぱい)」の徹底	○すすんであいさつへの意識向上 児童・教師アンケート3.0P以上 ○正しい言葉遣いのできる子ども 児童・教師アンケート3.0P以上 ○黙って、時間いっぱい掃除する子ども 児童・教師アンケート3.0P以上	3 2 2	○進んで・立ち止まって、笑顔であいさつを頑張る子どもが増えてきた。 △低学年の方が、さん付けが浸透している。今後も継続して、全学年で定着させていく必要がある。 △基本的な掃除の仕方や流れをきちんと指導する必要がある。「黙って」掃除が特に課題である。	A A A	・学校の評価は適切である。 ・見守り隊で朝、子どもたちと挨拶を交わすが、声の大小はあるがよく挨拶してくれる。 ・児童アンケートの結果もとても高く、校内環境が整っており、挨拶や仲間を思いやる心が育っていると思う。 ・登校時の挨拶は以前より積極的になっていると思う。	・今後も継続して「あいさつ」「ほかほか言葉」「黙々掃除」を徹底を図り、視覚化して賞賛していく。 ・「さん」づけから全体的な言葉遣いの改善を図る。「さん」づけからは乱暴な言葉遣いにつながりにくいことを捉えさせる。 ・「進んで」「笑顔で」「立ち止まって」挨拶ができるように指導していく。	
	○体力の向上 ①運動習慣づくり ②授業づくり	○体育学習での運動量の確保 ・走って移動の徹底 ・主運動30分以上の確保 ・めあての設定と場づくりの工夫 ○運動の日常化を図る ・外遊びを奨励し、1日15分以上の運動 ○持久力と仲間意識を高める運動の実施 ・体育のはじめに短縄1分間の実施 ・休み時間を活用した大縄跳びの実施	○体育の時間の運動量60%以上の確保 児童・教師アンケート3.0P以上 ○外遊び1日15分以上の確保 児童・教師アンケート3.0P以上 ○短縄・大縄に意欲的に取り組む子ども 児童・教師アンケート3.0P以上 ※実施率80%以上	3 3 2	○体育の学習では、ベテラン職員が行う授業を手本に、多くの学級で運動量の確保ができるようになってきた。 ○寒い日でも外遊びを元気にしている子どもが増えてきている。 △1・2学期の縄跳び実施が徹底できていなかった。	A A A	・学校の評価は適切である。 ・寒い日に半ズボンで登校している子どももいて、その元気に感心している。 ・運動や外遊びの取組に工夫がされており、先生方が尽力されていることが分かる。 ・持久力向上の評価対象を、縄跳びだけでなく体操や鬼ごっこなど手軽にできる運動にも広げたらいいと思う。	・全職員で共通理解し、気候のよい日の外遊びを今後も奨励する。 ・短縄や大縄を奨励し、体力向上を図るとともに、友達関係の構築や学級経営の向上に取り入れる。 ・体育の時間での活動の工夫を行い、休み時間での子どもの運動の動機付けにつなげる。	
いじめ防止	○認知したいじめの解消 ・100%解消	○早期発見・早期解消の取組の実施 ・毎月の児童アンケート、教師チェック等 ・毎回、アンケート結果に基づく教育相談 ・適宜、関係者会議での状況、取組の共有 ○家庭との連携 ・家庭用チェックリストの配布 ○教職員のいじめに特化した研修の実施 ・職員研修(学期1回) ・いじめ防止対策委員会(年3回以上)	○認知したいじめの早期解消 ・3ヶ月以内の解消100% ○保護者への聞き取り100% 教師アンケート ※未然防止の視点から ○いじめに対する意識 ・児童3P以上	4 4 4	○「いじめ」として認知した3件は解消し、いずれも再発はしていない。子どもたちも笑顔で登校している。 ○家庭用チェックリストを通して確実に保護者への聞き取りを行った。 △生徒指導上の問題の未然防止と早期発見体制のさらなる推進が必要である。	A A A	・学校の評価は適切である。 ・いじめへの取組は、早期発見し、組織的によく対応できていると思う。引き続き推進してほしい。 ・一人ひとりの子どもの実態が違うので、福岡アクション3の徹底を継続してほしい。	・いじめについての研修会を行い、全職員の意識を高める。 ・各種アンケートの実施と教育相談を確実にし、未然防止と早期発見・早期対応に努める。 ・規律ある支持的風土の学級づくりにより特化した研修を実施し、学級経営力の向上を図る。	
不登校防止	○不登校児童の減少 ・前年度比較減少	○未然防止、早期解消の取組の実施 ・毎月の児童アンケート、毎週の欠席状況とそ結果に基づく教育相談 ・関係者会議での状況、取組の共有 ○福岡アクション3の実施の徹底 ・スクールサポート対応、3日連続欠席児童対応等	○不登校傾向児童 ・前年度比減少 ・「学校は楽しい」 児童アンケート3.0P以上 ○福岡アクション3の実施100% 教師アンケート	3 3	○不登校傾向児童は、前年度よりも減少し、登校日数が増加した。 ○基本的には福岡アクション3を徹底できていたが、電話が混雑しているときなど、保護者への連絡を健康観察アプリのメッセージ機能で済ませていることがあった。	A A	・学校の評価は適切である。 ・小学校では対応が難しい案件が多いと思う。関係機関と連携し子ども第一で対応をお願いしたい。 ・SC、SSWの有効な活用やハートフルルームの設置の効果が出ているのと思う。	・家庭と連絡を取り合い、SSW等の関係機関と情報交換を行いながら早期対策を実施する。 ・ハートフルルームの利用について、安心して利用できる体制作りを推進する。 ・気になることは報告・連絡・相談を確実に行うようにする。	
働き方改革	○教職員の適正な勤務 ・昨年度比1割減	○定時退校日の学年設定とその実施 ・毎週1日の設定と職員室黒板への明記 ○働き方改革委員会等による取組の推進 ・毎月の時間外勤務状況の把握と対応の共有 ・放課後の時間の確保	○時間外勤務時間 ・前年度比10%減少 ○時間外勤務45時間以下を60%以上	3 3	○職員の時間外勤務は、毎月減ってきており、多くの職員が時間外勤務45時間以下を達成することができた月もあった。 △時間外勤務が80時間近い職員の適正化を推進する必要がある。	A A	・学校の評価は適切である。 ・よりよい職場環境の構築に向けて、改善を進めてほしい。 ・先生方の心の余裕が、子どもたちの安定になる。さらなる職務改善をお願いしたい。 ・二学期制になるそうだが、少しでも先生方の時間外勤務が減少してほしいと思う。 ・子どもたちとのふれあいの時間は確保できているか。	・二学期制によって生まれる時間的余裕の活用について見直しを持って計画し、業務改善につなげるようにする。 ・業務改善で生まれた時間を子どもとのふれあいの時間のさらなる確保につなげるようにする。 ・業務の効率化について職員と一緒に考え実行する。	

◇ 評価について
 ・【自己評価】 4:目標達成(90%以上) 3:ほぼ達成(70%~90%) 2:もう少し(60%~70%) 1:できていない(60%未満)
 ・【学校関係者評価】 A:自己評価は適切である B:自己評価は上方修正すべきである C:自己評価は下方修正すべきである

評価計画				自己評価		学校関係者評価		改善計画
領域	評価の観点		評価指標 (①取組指標または②成果指標)		評価	コメント		次年度における改善策(案)
教育課程 学習指導	○	年間指導計画や週案作成	○	行事等の反省(随時)と年間計画の見直し(年3回) 週案作成と提出(毎週)とコメント書き※質と量	3	A	子どもたちの気持ちややる気を大切にしたい支援の工夫を今後も継続してほしい。 先生方の日々の授業改善の結果が子どもの主体的な姿に表れている。	各行事の成果と課題を確実に次年度の計画に生かし、ブラッシュアップしていく。 主題研修にかかる校内研修を定期的に位置づけ、職員の取組を共有・評価・改善する。
	○	算数科を中心とした、協働的な学びを位置づけた授業づくりの推進	○	習熟度別学習の計画的な実施 授業づくりに関する学年打ち合わせの時間の確保	4			
進路指導	○	望ましい勤労観の育成	○	体験活動の充実(黙々掃除、ボランティア体験、委員会活動、係活動等)※キャリアパスポート	3	A	白銀中学校になるので、改めて小中一貫教育を充実し、中一ギャップの解消をお願いしたい。	道徳科の内容項目「勤労・奉仕」に関する題材について重点的に教材研究を図る。 キャリアパスポートの振り返りの場を計画的に設定する。
	○	キャリア形成と自己実現	○	学級活動の時間において現在や将来に希望や目標を持って生きる意欲や態度の形成	4			
生徒指導	○	校内生徒指導の充実	○	全教職員による児童理解会議の実施(毎月1回) ※報告・連絡・相談体制の徹底	3	A	気になる子どもの情報共有など、細やかに対応してあるのが分かった 未然防止と早期発見・早期対応に努めてあり、安心して任せられる。 生徒指導上の問題に、丁寧に対応してもらっている。今後も児童の様子を注意深く観察し、対応していただきたい。	児童理解会議での視点を明確にし、具体的に対応や支援の手立てを講じる。 問題行動等の発生時における迅速な対応体制を継続していく。 各案件の確実な記録、フィードバック等を確実に行う。
	○	教育相談の充実	○	生活アンケート等と関連した面談の実施(毎回) スクールカウンセラー(S・C)・スクールソーシャルワーカー(SSW)の活用(日常)	4			
	○	問題行動への組織的対応	○	児童理解会議(毎月1回)と関係者によるケース会議(適宜)を活用した具体的対応の共有とその実施 問題行動等の早期解決	4			
保健管理	○	保健管理体制	○	環境衛生(教室換気、採光、トイレ、飲料水等)の管理(毎月の安全点検の活用) 保健室報告(毎日)の共有と終礼等での全体への周知	4	A	今後も環境衛生の維持に努めてほしい。	健康増進に係る情報提供を継続する。
	○	校内の安全管理	○	毎月の安全点検の確実な実施 校内施設等に係るけが等の減少(前年度比)	4			
安全管理	○	危機管理に関わる対応	○	避難訓練、防犯教室、交通教室等の実施(年4回) 通学路の安全点検、見守り隊との連携(適宜) 近隣の学校間、地域との情報交換(年1回)	3	A	施設の不備や倒壊の事故が最近も起きていたため、十分に気をつけていただきたい。 安全についての情報が学校や地域で共有されていることが分かって安心した。	地域や保護者と連携を強化し、危険個所の解消や危機回避のための研修を推進する。 日常的な場面での安全な行動について子どもたちに適宜呼びかけ、防犯・防災への意識を高める。
	○	特別支援教育の推進	○	全教職員による児童理解会議の実施(毎月1回) 個別の指導計画の作成とその実施と評価(学期1回) ・交流学習の充実、通常学級の対応の充実 個別対応に向けた関係機関や保護者との連携(随時)	3			
組織運営	○	重点目標達成に向けた組織の機能化	○	重点目標三部会(学力・心・体力)の実施(毎月1回) 各教職員の自己評価に基づく校務の遂行(学期1回)	3	A	知・徳・体を各部会で高めようとしているのがよく分かった	各部会で課題や共通実践を出した後、明文化して凡事徹底を図る。
	○	校内研修の推進	○	全員の授業公開と主題研究の日常化	3			
	○	一般研修の推進	○	道徳、人権・同和教育、特別活動等に係る研修の推進 ※ICTに関する研修の充実	3			
教育目標 学校評価	○	教育目標の達成状況 ・本年度の重点目標	○	重点目標の取組状況と達成状況の評価とその改善(毎月)	3	A	定期的な評価と改善を通して、具体的な取組が継続して行われている。	週案を効果的に活用し、その週に取り組む重点を明確にする。 各行事での「ねらい」を大切に提案をし、学校全体で重点目標を意識する。
	○	学校評価の実施と評価	○	学校の自己評価(学期1回)と学校関係者評価委員会の実施(年3回)	4			
情報提供	○	情報提供のネットワーク化	○	学校通信や学年・学級通信等の定期的な発行、及び緊急連絡メール配信やMボードの定期的な発信 地域の方との双方向性の情報連携	4	A	学校の取組や子どもの頑張りがよく分かるので、今後も続けていただきたい。	学校通信やMボードを活用し、保護者や地域への情報共有、連携を更に推進させる。
保護者・ 地域との 連携	○	保護者、地域住民等との連携	○	家庭学習強調週間に伴う学習習慣づくりの推進(年3回) 学習参観、学校や地域の行事等の学校開放(随時)	4			
教育環境 整備	○	学校施設の環境整備	○	各教室、校舎内外の施設等の点検・整備	4	A	子どもたちの作品へのあたたかいコメントは、子どもたちの自尊感情を高める要因につながるため、大変だが続けてほしい。	児童が安心して学校生活を送るための安全点検を今後も確実に実施する。また、修理や補修が必要な案件については迅速に対応していく。
	○	校内の環境整備	○	教育環境・学年掲示板の定期的な整備	3			

◇ 評価について
 ・【自己評価】 4:目標達成(90%以上) 3:ほぼ達成(70%~90%) 2:もう少し(60%~70%) 1:できていない(60%未満)
 ・【学校関係者評価】 A:自己評価は適切である B:自己評価は上方修正すべきである C:自己評価は下方修正すべきである